

辻 の 風 景 参



森山の道しるべ（森山町）

旧太田宿を起点とする飛騨街道は、上古井の森山町で二つに分かれ、一つは川辺・七宗を経て、飛騨高山を目指します。もう一つの道は、かつて木造のつり橋であった青柳橋を渡り、兼山・八百津へと続きました。

明治25年、この分かれ道に、名古屋市塩町の伊藤萬蔵氏が道しるべを建てました。「右かね山 八百津 木曾路 左川辺 麻川 飛騨高山道」と書かれ、行き交う人々の道しるべとなりました。

その後、道しるべは傷み、別の場所で保管されていましたが、地元の人々の熱意により、昨年この街道に建て直されました。